

情報公開文書

「胆道がん・肝内胆管がんの病態解明を目指した後向き観察研究」についてのご説明

1. 研究の対象

昭和 57 年（1982 年）1 月 1 日から平成 30 年（2018 年）6 月 30 日までに、病理組織検査にて以下にお示しする疾患と診断され、札幌医科大学附属病院で治療を受けられた方を対象としております。

<対象疾患名>

胆道がん（たんどうがん）

胆管がん（たんかんがん）

肝門部領域胆管がん（かんもんぶりょういきたんかんがん）

肝門部胆管がん（かんもんぶたんかんがん）

クラツキン腫瘍（クラツキンしゅよう）

遠位胆管がん（えんいたんかんがん）

上部・中部・下部胆管がん（じょうぶ・ちゅうぶ・かぶたんかんがん）

胆嚢がん（たんのうがん）

胆嚢腫瘍（たんのうしゅよう）

乳頭部がん（にゅうとうぶがん）

十二指腸乳頭部がん（じゅうにしちょうにゅうとうぶがん）

ファーター乳頭部がん（ファーターにゅうとうぶがん）

肝内胆管がん（かんないたんかんがん）

胆管細胞がん（たんかんさいぼうがん）

CCC（シーシーシー）

2. 研究の目的・方法

本研究は第一に、胆道がん、肝内胆管がんの診療の実態を把握し、病気としての特徴や治療状況、治療結果を明らかにすることを目的としています。また、がんに対する研究が進歩してきている中で、胆道がん、肝内胆管がんの病気としての性質や、特徴と関連する分子の発現変化を探索することを第二の目的としています。

そのため、病理組織検査にて胆道がん、肝内胆管がんと診断された方の診療情報から必要な情報を収集し分析します。また、生検や手術で摘出され、既にホルマリンに固定された腫瘍組織の免疫染色を行い、腫瘍における分子の発現状況を調べ、臨床情報との関連性を調べます。研究の期間は病院長の承認の得られた日から平成 33 年（2021 年）6 月 30 日までです。また、予定症例数は 600

例です。

なお、この研究を行うことで、患者さんに通常診療以外の余分な負担は生じません。この研究結果は胆道がんと肝内胆管がんの病態を明らかにし、より良い診断や治療につながる一助となり、同じ病気の患者さんの将来の医療に貢献できます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療内容、病理検体番号、カルテ番号

試料：手術で摘出された組織、生検された組織

4. 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、提供を希望しない場合は、いつでも下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合は、あなたに関わる研究結果は破棄され、診療記録なども、それ以降は、研究目的に用いられることはありません。

ただし、あなたから研究対象とはしないでほしいとご連絡を受けた時点で、既に、研究結果が論文などに公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には、解析結果等からあなたに関するデータを取り除くことが出来ないことがあります。

【研究責任者】

山口 洋志（札幌医科大学 消化器・総合、乳腺・内分泌外科 助教）

【連絡先】

平日日中 札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座教室

電話 011-611-2111（内線 32810）

時間外・休日 札幌医科大学附属病院 5階南病棟看護室

電話 011-611-2111（内線 32910）